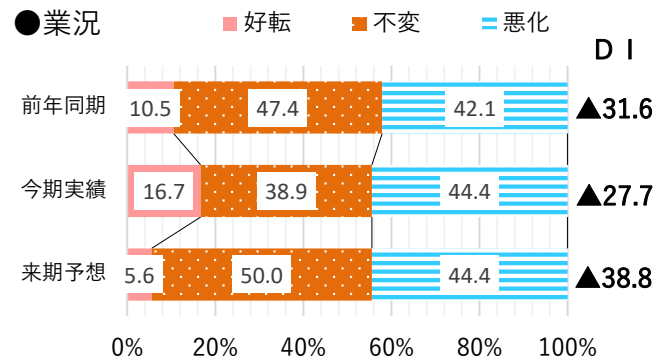


# 運輸・倉庫業

## 業況、売上、採算

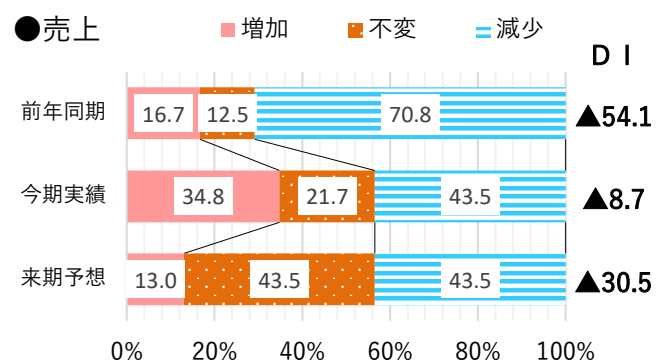
今期（2021.7～9）の業況判断DIは▲27.7で、前年同期（2020.7～9）と比べ3.9ポイント上昇しました。

来期（2021.10～12）は、業況の悪化傾向が強まると予想しています。



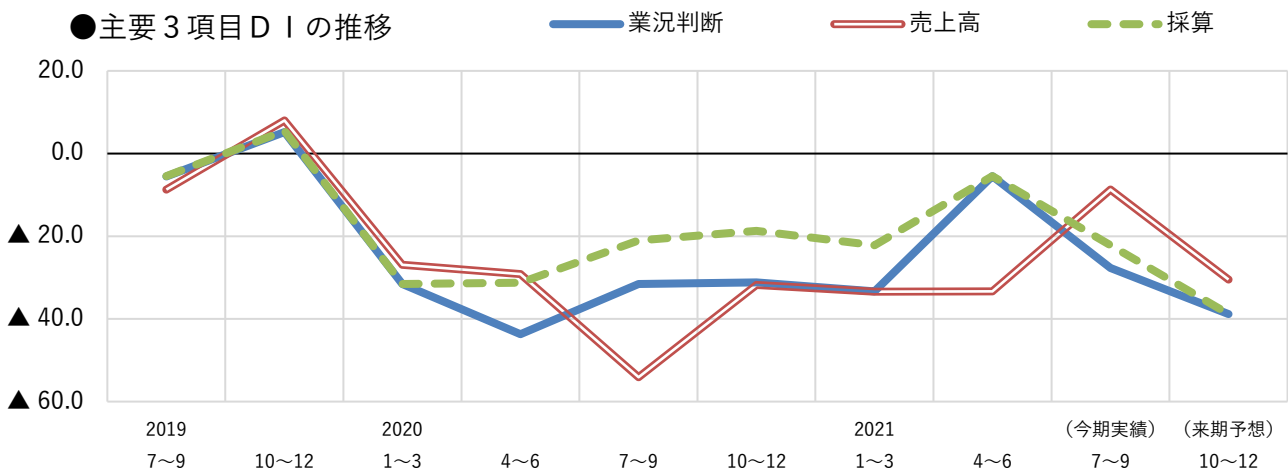
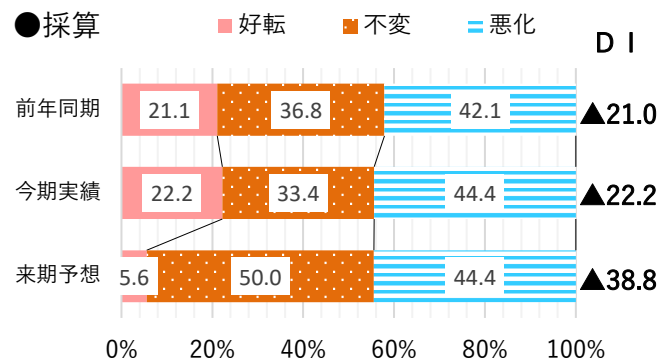
今期の売上高DIは▲8.7で、前年同期と比べ45.4ポイント上昇し、大幅に好転しました。

来期は、売上の減少傾向が強まると予想しています。



今期の採算DIは▲22.2で、前年同期と比べ1.2ポイント低下しました。

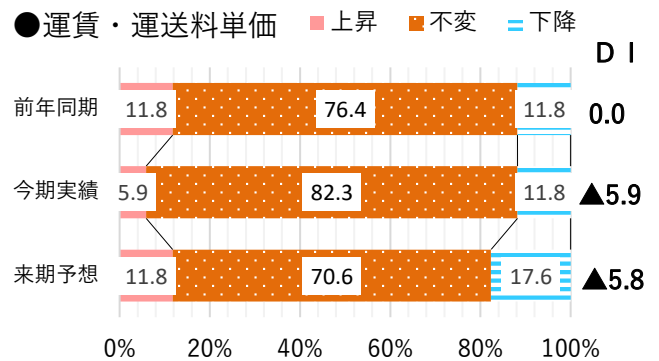
来期は、採算の悪化傾向が強まると予想しています。



運賃・運送料単価、保管料単価

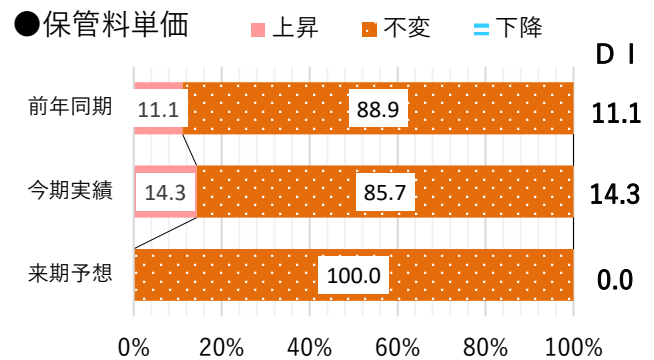
今期の運賃・運送料単価DIは▲5.9で、前年同期と比べ5.9ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、運賃・運送料単価に大きな変化はないと予想しています。



今期の保管料単価DIは14.3で、前年同期と比べ3.2ポイント上昇しました。

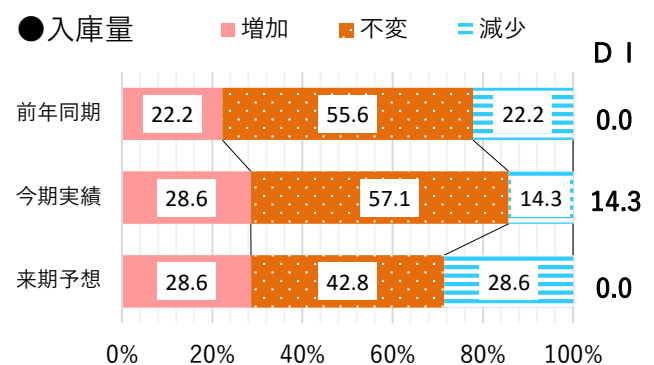
来期は、保管料単価に変化はないと予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

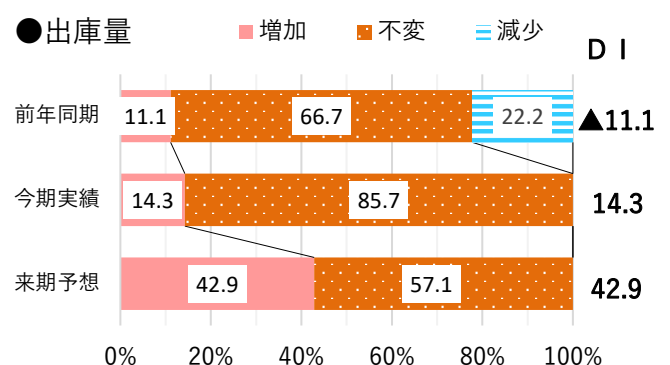
今期の入庫量DIは14.3で、前年同期と比べ14.3ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、入庫量の増加傾向が弱まると予想しています。



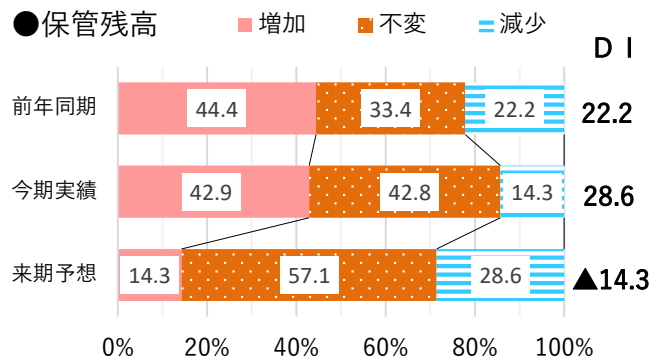
今期の出庫量DIは14.3で、前年同期と比べ25.4ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、出庫量の増加傾向が強まると予想しています。



今期の保管残高DIは28.6で、前年同期と比べ6.4ポイント上昇しました。

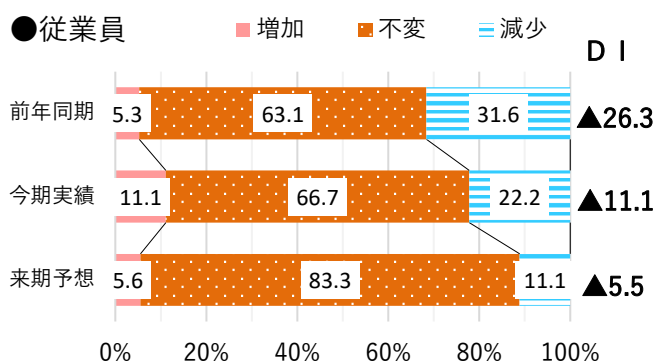
来期は、保管残高が大幅に減少し、マイナスに転じると予想しています。



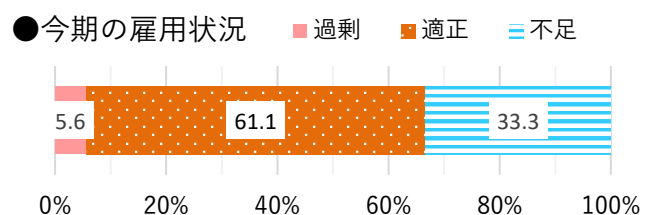
### 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲11.1で、前年同期と比べ15.2ポイント上昇しました。

来期は、従業員の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は5.6%、適正であると回答した企業の割合は61.1%、不足していると回答した企業の割合は33.3%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、運輸・倉庫業全体の50.0%を占めています。

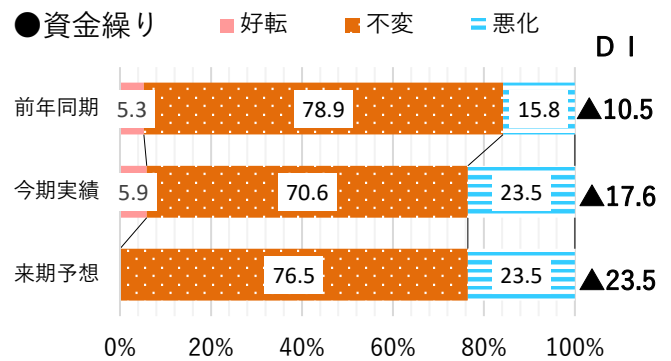
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	0
不変だった	過剰	1
	適正	9
	不足	2
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	4

資金繰り、設備投資

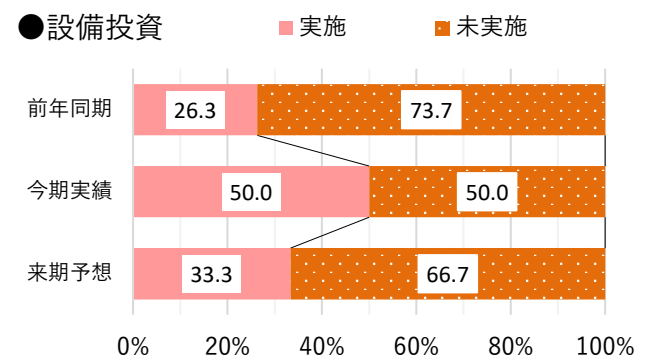
今期の資金繰りDIは▲17.6で、前年同期と比べ7.1ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が続くと予想しています。



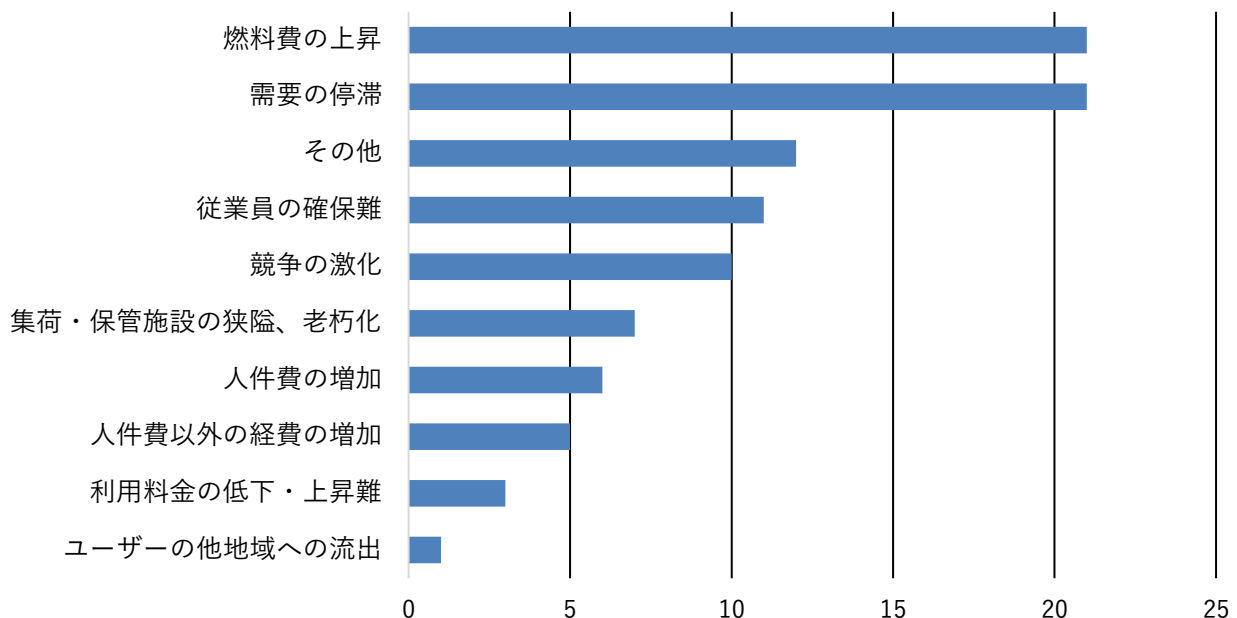
設備投資を実施した企業の割合は50.0%で、前年同期と比べ23.7ポイント上昇しました。投資内容は、1位が「輸送機材」、2位が「その他」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は33.3%で、低下を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「燃料費の上昇」、「需要の停滞」（同位）、2位が「その他」、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 運賃、荷役賃単価の交渉が難航し、予算計上した分の売上を確保できていない。昨年比で燃料費が大幅に上昇したこともあり、業績が悪化した。(道路貨物運送)
- 燃料費が上昇した。猛暑により道内で干ばつが生じ、農産物の輸送量が低下した。(道路貨物運送)
- 需要が停滞し、運搬量が減少した。燃料費が上昇したため、経費は増加した。(道路貨物運送)
- 内麦・米関係の倉庫保管量及び輸送量の増加により、収益が増加した。(道路貨物運送)
- 天候不順のため、農作物の輸送量が減少した。燃料価格が上昇した。(道路貨物運送)
- 相次ぐ緊急事態宣言、まん延防止等重点措置により域内の需要が停滞した。昨年より厳しい経営状況下にあるにも関わらず、支援策は縮減傾向のため、業況は悪化した。(道路旅客運送)
- 7月の売上はやや増加したが、まん延防止等重点措置、緊急事態宣言の発出により8月以降は減少した。LPガスの価格が高く、負担となっている。(道路旅客運送)
- 前年同期比で売上が増加した。(道路旅客運送)
- 在庫量が減少した。(倉庫)
- コロナ禍が続いているが、貨物量は減少していない。今後は燃料費の高騰が懸念される。(港湾運送)
- 緊急事態宣言の延長によって、旅客の利用自粛が続いているが、昨年よりは若干の回復傾向にある。経済活動の停滞や干ばつによる農産物の不作、収穫量の減少により、輸送量は減少した。(水運)

[来期の業況について]

- 運賃、荷役賃単価の交渉が円滑に進み、出荷量が一昨年並みに回復することで、業況の好転を見込む。(道路貨物運送)
- 安定的な発注があった公共工事が一部停滞することで、業況は悪化すると思われる。(道路貨物運送)
- 燃料費の上昇と、農産物の輸送量減少が続くと思われる。(道路貨物運送)
- まん延防止等重点措置、緊急事態宣言の影響が続き、売上は減少すると思われる。昨年はGoToキャンペーンで売上が増加したが、今年は期待できない。最低賃金の引き上げも負担となる。(道路旅客運送)
- まん延防止等重点措置、緊急事態宣言によって停滞した需要は回復しないとされる。支援策の拡充を求める。(道路旅客運送)
- 在庫量の減少に加え、出庫量の増加が予想される。(倉庫)
- 旅客運送のピークが過ぎ、GoToキャンペーンの利用が見込めないため、業況の悪化を見込む。燃料価格の上昇で、輸送単価が上昇すると思われる。干ばつによる農産物の収穫量減少の影響は続き、経済活動の回復には期待できない。(水運)